

湯原温泉

〔東遊雜記^七〕湯温海といふ所は、海濱より十七八町も山分に入、此町は中々よき所にして、温泉ありて家ごとに湯つばをして、旅人を入れる事也、倡家數十軒、一家に三十人も四十人も賣女の居る事なり、いづれの所より此所へ遊びに来る人のある事にて、賣女の多き事にやと尋るに、功ある温泉にて、入湯せるものも數多にて國中よりも集る所といへり、町の上には巖々たる山計、古人湯温嶽と稱、山の風俗至てよし、

〔東遊雜記^七〕湯原と云る所は、街道筋にして、百軒計のよき町にて、温泉十六ヶ所、家々奇麗に湯壺をして、旅人を入らしむ、さして功ある湯にはあらず、上逆の症疝氣によしと云々、

加賀國
山中温泉

〔梵舜日記〕慶長八年九月三日、二位卿兼吉田女房衆、加州山中之湯ニ御越、拙僧モ可有同道之由候間、俄罷越、八日、金津宿越前坂井郡ヨリ加州之内、山中湯宿加賀江沼郡へ付ヌ、其日ヨリ二七日ノ湯治也、十二日加州山中湯宿、藥師硫黃寺へ參詣、廿二日、二七日之湯治、日數相濟ニ依テ、越前ノ北莊マデ上リ也、

〔奥の細道〕山中の温泉に行くほど、白根が嶽跡にみなしてあゆむ、左の山際に觀音堂あり、花山の法皇三十三所の順禮とげさせ給ひて後、大慈大悲の像を安置し給ひて、那谷と名付け給ふとや、那智谷汲の二字をわかち侍りしとぞ、奇石さまざまに、古松植ゑらるるに、萱ぶきの小堂、岩の上に造りかけて、殊勝の土地なり、

石山の石より白し秋の風

温泉に浴す、其功有馬に次ぐと云ふ、

山中や菊はたをらぬ湯の匂

〔越中舊事記一〕山田谷

温泉有諸瘡并打身を能く治す、

越中國
山田温泉